



## Botswana Medical Information



2018年6月

新聞報道抜粋

### ●エボラ流行中のコンゴ民への渡航を避けることについて

保健省は、国民に対し、エボラが流行しているコンゴ民への渡航の延期を勧めた。保健省スポークスマンは、現在2ヵ国間の渡航制限はないが、影響のある国、特に流行地域への渡航は延期すること、また国境において、流行国から入国する人に対して、病気の兆候があるようなら、隔離し、評価する旨述べた。

(1日メヒ)

### ●ボツワナの医療費は結果を反映していない WHO

国際ウィメンズヘルス会議に於いて、WHOボツワナ事務所からの職員のスピーチにて、ボツワナは2001年にAU国家にて採択されたアブジャ宣言（予算の最低15%を医療セクターの改善に充てる）を遵守しているにも関わらず、結果が伴っていないと述べた。ボツワナは国家予算の17.8%が医療セクターに充てられている。今年度国家予算の82億プラが医療セクターの予算となっている。

(1日ボツワナガーディアン)

### ●政府は時期尚早にHIV研究の途中結果を公表したWHOを批判

ボツワナハーバードパートナーシップとボツワナ保健省との共同研究の途中経過にて、妊娠初期にドルテグラビルを服用することにより、新生児に神経管障害がでているという結果を、WHOはホームページ上に掲載した。保健省大臣は、WHOに対して申し立てをしたことを認めたが、詳細については明らかにしなかった。保健省は出産年齢にある女性に対して、引き続きドルテグラビルを慎重に使用していくとしている。

(5月30日—6月5日ボツワナガゼット紙)

### ●ボツワナ国民が南アフリカの病院での治療を拒否される

ボツワナで治療できない病気（小児がん、眼科、血液疾患、小児循環器等）に関して、南アフリカの病院へ搬送し、治療を依頼している。しかし最近2名の患者がボツワナ政府によるネットケアサニングヒル病院への未払い金のため、治療を拒否された。プリンセスマリナ病院は情報を開示しなかったが、ある情報からは、借金は140万プラと予測される。ボツワナは南アフリカへのメディカルツーリズムに貢献しており、プリンセスマリナ病院から毎週最低30名の患者を送っている。また2015年から2017年にかけて、インドで治

療するため（骨髄，腎臓，肝臓移植）に計 1300 万プラが使用されている。（2－8日ウィークエンドポスト紙）

●デブスワナは鉱夫の健康と安全を犠牲にしている

サンデースタンダード紙が入手した文書によると，デビアス社とのボツワナ政府がパートナーシップを結んでいるデブスワナにて，鉱夫に対して行う全身スキャンは，デビアス社が開発した全身スキャナー「scannex」であり，これは国際的に認められておらず，カナダでは使用を禁止されたものである。このスキャナーはアフリカの鉱夫に対してのみ使用されており，国際原子力機関（IAEA）の基準を満たしていない。ボツワナ放射線調査団はスキャナーの使用を認めたが，環境省はボツワナのデブスワナ鉱山にてこのスキャンを使用することを禁止した。環境省大臣は，禁止した理由として，デブスワナがこのスキャナーにより鉱夫の健康に影響が出現し，会社を訴えた場合の保険があるのかを問い正したが，返答がなかったためだと述べた。（3－9日サンデースタンダード）

●化学兵器禁止条約の修正案可決予定

法案が採決されることにより，ボツワナ国内での化学兵器の製造，保持，保管，移動させることを禁止することになる。（18日デイリーニュース）

●ラモツワナ病院の医療資源不足

Bamalete Lutheran Hospital は，助産師，医師，広報，病院長，耳鼻科，小児科専門医の職員が不足している。サウスイーストディストリクトのディベロプメントレポートによると，耐用年数を超えている機器，バイタルサインモニター，麻酔機器，洗濯機，オートクレーブ，歯科用椅子等があり，交換が必要であり，3台の救急車は1995年，2000年のものである。医薬品の充足率は71%であり，国の目標値を下回っている。手術室は，空調障害のため2017年12月より稼働していない。（21日デイリーニュース紙）

●違法薬物

ボツワナ警察は2018年1月から3月まで381件の違法薬物を取り締まった。薬物の種類としては，ダッガ(dagga)（注：カナビス，マリファナ，大麻と同義）10kg 100万プラ相当，メトカチオン532g 5万3千プラ相当 gatu ，コカイン17g 1700プラ相当，カート(Khat) 14g 1300プラ相当が押収された。（27日デイリーニュース）

文責：高原 野草（在ボツワナ日本大使館医務官）